

2013 年度事業報告 (2013 年 4 月 1 日～2014 年 3 月 31 日)

日本気象学会は2013年4月1日に公益社団法人に移行し、定款第3条のとおり「気象学、大気科学等の研究を盛んにし、その進歩をはかり、国内及び国外の関係学協会等と協力して、学術及び科学技術、並びに文化の振興及び発展に寄与すること」を目的として、2013年度は定款第4条で定める以下の事業を推進した。

- ・ 気象学、大気科学等に関する研究会及び講演会等の開催
- ・ 機関誌その他気象学、大気科学等に関する図書等の刊行
- ・ 研究の奨励、援助及び研究業績の表彰
- ・ その他この目的を達成するために必要な事業

I 気象学、大気科学等に関する研究会及び講演会等の開催事業の実施（公益目的事業1）

気象学・大気科学に関する研究成果や最新の知見を、大会における講演発表、公開気象講演会、各支部における研究報告会並びに普及活動等を通じて社会に公表し、学術及び科学技術、並びに文化の振興及び発展を図った。

1. 研究会等の開催

(1) 全国大会

春季並びに秋季に開催している全国大会は、会員等が研究及び調査の成果を発表する研究集会であり、2013年度は、春季は東京で秋季は仙台を開催地として、以下のとおり開催した。各大会は講演企画委員会と担当機関内に設置された実行委員会が協力して、企画運営を行っている。

① 2013 年度春季大会

期 日：2013 年 5 月 15～18 日

場 所：国立オリンピック記念青少年総合センター

担 当：東京大学大気海洋研究所

参加者：858 名

講演数：口頭発表 247 件、ポスター発表 137 件、合計 384 件

シンポジウム：「変化する地球環境と気象学の役割」（5 月 17 日）

② 2013 年度秋季大会

期 日：2013 年 11 月 19～21 日

場 所：仙台国際センター

担 当：仙台管区気象台、東北大学大学院理学研究科、日本気象協会東北支部

参加者：821 名

講演数：口頭発表 332 件、ポスター発表 208 件、合計 540 件

シンポジウム：「二酸化炭素研究の新展開」（11 月 20 日）

(2) 調査研究会

2012年～2013年にかけて我が国で発生した気象災害に関して、気象災害委員会が中心となって、以下の調査研究会を開催した。

① 「梅雨期の大雨—平成24年7月九州北部豪雨—」（メソ気象研究連絡会と共催：2013年5月14日（東京））

② 「2013年7・8月豪雨に関する研究会」（メソ気象研究連絡会と共催：2013年11月18日（仙台））

(3) 研究連絡会

研究連絡会は会員の自主的な発議に基づき、理事会の承認を得て設置されており、若干の世話人を中心に運営されている。2013 年度は以下の 9 研究連絡会が合計 13 回の研究会を、主に春季・秋季大会の期間中に開催した。

研究連絡会	期日	場所	テーマ
メソ気象	2013 年 5 月 14 日	東京	梅雨期の大雨—平成 24 年 7 月九州北部豪雨—
極域・寒冷域	2013 年 5 月 15 日	東京	両極の氷床変動に関連する最近の研究及び、最近の日本の寒冬に関する討論
地球観測衛星	2013 年 5 月 15 日	東京	日本の地球観測衛星の現状と未来
統合的陸域圏	2013 年 5 月 15 日	東京	大気—陸域相互作用が気候システムにあたえる影響
惑星大気	2013 年 5 月 17 日	東京	惑星大気研究の未来
非静力学数値モデル	2013 年 9 月 26～27 日	札幌	第 15 回非静力学モデルに関するワークショップ

THORPEX	2013年10月21～22日	京都	異常気象と気候システム変動のメカニズムと予測可能性
メソ気象	2013年11月18日	仙台	静かなるメソ気象—ヤマセ・霧・層雲—
メソ気象	2013年11月18日	仙台	2013年7・8月豪雨に関する研究会
統合的陸域圏	2013年11月19日	仙台	大気—陸域相互作用に関連したモデル相互比較実験の動向
極域・寒冷域	2013年11月19日	仙台	北極海の雲・降水の観測—新型レーダーによる展望—
長期予報	2013年11月26日	東京	十年規模変動—地球温暖化の停滞、天候への影響—
航空気象	2014年2月7日	東京	調査・研究報告会
天気予報	2014年2月14日	東京	大雪の予報と気象急変時の監視と伝達について

(4) 気象研究コンソーシアム

気象研究コンソーシアムは、日本気象学会と気象庁とで締結された包括的な共同研究契約「気象庁データを利用した気象に関する研究」に基づく枠組みである。

2013年度におけるこの枠組みを利用した研究課題数は、継続課題29件、新規課題4件の合計33件である。これら課題による研究成果は春季大会の専門分科会において発表した。

(5) 他学会との共催等

他学会と共催で、気象学・大気科学に関する研究会やシンポジウム等を実施し、研究成果の公開に努めると共に、関連分野の研究者との情報交換、情報共有に努めた。2013年度は以下の会合等を開催した。

① 「シンポジウム：科学・公益・社会—情報発信のあり方を考える—」

主催：日本学術会議（2013年6月21日：学術会議講堂）（日本気象学会他共催）

② 第50回アイソトープ・放射線研究発表会

主催：日本アイソトープ協会（2013年7月3～5日：東京大学弥生講堂）（日本気象学会他共催：学会から委員を選出し運営に参画。）

③ 第31回エアロゾル科学・技術研究討論会

主催：日本エアロゾル学会（2013年8月27～29日：京都大学吉田キャンパス）（日本気象学会他共催）

④ 第6回日中韓気象学会共催会議の開催

共催：日本・中国・韓国、各国気象学会（持ち回りで2年毎に開催）（2013年10月23～25日：南京信息工程大学（中国南京））

⑤ 第23回風工学シンポジウム開催準備

共催：日本風工学会、日本建築学会、日本鋼構造協会、土木学会（2年毎に開催：日本気象学会からも委員を選出して運営に参画。）

（注）2014年度開催の第23回シンポジウムは、日本気象学会が幹事学会となることから、2013年度に運営委員長を選出し、準備を進めている。

(6) 支部研究会活動

各支部において年1～4回、地域特有の現象等に関する気象学や大気科学の研究成果の発表会を行い、研究成果の公開に努めると共に、研究者間で情報交換、情報共有に努めた。2013年度は以下のとおり実施した。

① 北海道支部 ア 第1回研究発表会 2013年6月24日（札幌市）

イ 第2回研究発表会 2013年12月17日（札幌市）

② 東北支部 全国大会秋季大会開催のため支部研究会は開催せず。

③ 中部支部 支部研究会 2013年12月7～8日（長野市）

④ 関西支部 ア 支部年会 2013年6月29日（大阪市）

イ 第1回支部例会 2013年11月9日（岡山市）

ウ 第2回支部例会 2013年12月18日（大阪市）

エ 第3回支部例会 2013年12月20日（高松市）

⑤ 九州支部 支部発表会 2014年3月1日（福岡市）

⑥ 沖縄支部 支部研究会 2014年3月4日（恩納村）

(7) その他

① 日本気象学会夏期特別セミナー（若手会 夏の学校）開催への援助

本セミナーは、若手研究者の研究発表の実施並びに最先端の研究を行う気象研究者による講演を行うことにより、若手研究者相互の交流や研究意識を高めることを目的としており、日本気象学会が援助を行っている。2013年度は、日本海洋学会と共催で以下のとおり行われた。

・日時：2013年9月6日～8日

- ・場所：(独) 国立青少年教育振興機構 国立磐梯青少年交流の家 (福島県)
- ・内容等：若手研究者による研究発表、気象・海洋研究者による講演、若手研究者の交流会

2. 一般向け普及・啓発活動

(1) 公開気象講演会

教育と普及委員会が中心となって、一般市民の方々に気象に関する最近の研究成果を分かりやすく解説することを目的として、春季大会開催時に毎年度開催している。2013年度は以下のとおり実施した。

- ・日時：2013年5月18日(土)
- ・場所：国立オリンピック記念青少年総合センター
- ・テーマ：将来の再生可能エネルギーと気象

(2) 第46回夏季大学

夏季大学は、最新の気象学の知識の普及を目的に、小中高校の教職員や、気象の愛好家を対象とした、やや専門性の高い講座で、教育と普及委員会が中心となって毎年度開催している。2013年度は以下のとおり実施した。

なお、同様の活動は以下の(3)で示すように、各支部においても実施している。

- ・日時：2013年7月27日(土)～28日(日)
- ・場所：横浜国立大学
- ・テーマ：台風学の最前線

(3) 支部普及活動

各支部において、それぞれの地域の実情に応じて、「気象講演会」、「サイエンスカフェ」、「こども気象学会」、「離島お天気教室」等、一般市民並びに子供を対象に普及活動に努めている。2013年度は以下の活動を実施した。

支部	活動	日時	場所	内容	
北海道	サイエンスカフェ	2013年6月24日	札幌市	台風についてわかっていること知らないこと	約60名
	気象講演会	2013年12月14日	稚内市	～ともに考えてみませんか。この地球の未来のために私たちにできること～	約35名
東北	気象講演会	2013年10月20日	弘前市	突風研究の最前線、ヤマセの観測	約70名
	サイエンスカフェ in 東北	2014年3月9日	仙台市	竜巻から身を守る～竜巻などの激しい突風からどのように身を守るかを考えよう～	約40名
中部	サイエンスカフェ in 名古屋	2013年8月3日	名古屋市	猛暑はどこから来るのか?	約40名
	公開気象講座	2013年8月23日	名古屋市	竜巻	約200名
	サイエンスカフェ in 名古屋	2014年2月1日	名古屋市	雪崩から身を守るために	約40名
	サイエンスカフェ 北陸 in 富山	2014年3月1日	富山市	台風の故郷、熱帯気象へようこそ	約20名
関西	夏季大学	2013年8月31日	京都市	竜巻～理論・実験・観測～	約95名
	サイエンスカフェ in 関西	2014年1月25日	大阪市	災害報道の落とし穴～現場からの報告～	約20名
九州	気象教室	2013年8月3日	福岡市	最近の話題から～PM2.5とは何か? 2012年7月九州北部豪雨の発生要因～	約80名
	こども気象学会	2013年10月27日	福岡市	小学生の児童が気象に親しみ、自ら気象について調べ、発表する楽しさを体験	約70名
	サイエンスカフェ in かごしま	2014年2月1日	鹿児島市	黒潮と天気の本質～鹿児島島の自然と生物に黒潮が与える恵み～	約30名
	サイエンスカフェ in 九州	2014年2月22日	福岡市	熱帯の気象～台風の生まれ育つところ～	約30名
沖縄	親子のお天気教室	2013年8月2日	那覇市	はれるんと楽しく勉強してみませんか?	約345名
	離島お天気教室	2013年10月3日	与那国町	ふれて楽しむ天気の不思議	約40名

離島お天気教室	2013年10月10日	竹富町	ふれて楽しむ天気不思議	約40名
離島お天気教室	2013年11月29日	北大東村	ふれて楽しむ天気不思議	約65名
防災気象講演会	2014年1月16日	那覇市	みずからの命を守る防災教育	約310名
施設見学バスツアー	2014年3月4日	恩納村	沖縄科学技術大学院大学見学	約25名

(4) その他

① 気象教育懇談会

気象学に関わる教育やアウトリーチ活動に関する問題を考える場として、大会期間中に気象教育懇談会を開催している。初中等教育関係者のみならず、研究者・気象業務担当者・高等教育関係者の情報交換の場として機能している。2013年度は、次のとおり開催した。

- ・日時：2013年5月17日
- ・場所：国立オリンピック記念青少年総合センター
- ・テーマ：初等中等教育における気象の扱いについて—その現状と課題—

② 気象予報士CPD制度創設の支援

日本気象予報士会が中心となり、日本気象学会員及び気象事業関係者等の有志が集まり、「気象予報士CPD制度創設準備委員会」を立ち上げ、気象技能の継続的な研鑽を目的としたCPD (Continuing Professional Development) 制度の導入を検討している。

II 機関誌その他気象学、大気科学等に関する図書等の刊行事業の実施（公益目的事業2）

気象学・大気科学に関する研究成果や最新の知見を、刊行物によって社会に公表することを通じて、学術及び科学技術の振興と発展を図っている。2013年度は、以下の1～5の5種類の図書の刊行を行った。

1. 機関誌「天気」の刊行

「天気」は、和文の査読つき論文、気象学・大気科学に関する解説、学術集会の報告、その他日本気象学会や関連学会等の情報などを掲載した月刊の機関誌である。編集作業等は、全国の会員40名余りで構成された天気編集委員会が担当している。

2013年度は「第60巻4号～第61巻3号 計1090ページ」を刊行した。また、冊子体の発行からおおよそ1ヵ月後に、電子ジャーナル版を公開している。

2. 英文論文誌「気象集誌」の刊行

「気象集誌 (Journal of the Meteorological Society of Japan)」は、英文の査読つきオリジナル論文を掲載する隔月刊の論文誌である。編集作業等は、海外の研究者を含む25名余りで構成された気象集誌編集委員会が担当している。

2013年度は「第91巻2号～第92巻1号及び特別号91-A 計1236ページ、論文60編」を刊行した。また、冊子体の発行からおおよそ1ヵ月後に、電子ジャーナル版を公開している。

また、日本学術振興会から（科学研究費補助金：研究成果公開促進費）を受けており、2013年度から5ヵ年計画で「国際情報発信強化の取組」を進めている。初年度の2013年度は、投稿を促すことを目的に、リーフレットの作成と配布、並びに日本気象学会HP上に掲載論文の予告紹介や編集委員会からのお知らせ等の情報の発信強化を行うための気象集誌専用のサイトを設ける等の活動を実施した。

3. 英文レター誌「SOLA」の刊行

「SOLA」は、速報性を重視したWeb上（電子版）のみで公開する英文の査読つきレター誌である。速報性を重視しているため、1編の英単語数の上限を3100語（約4ページ相当）としている。編集作業等は、海外の研究者を含む40名余りで構成されたSOLA編集委員会が担当している。

2013年度は「第8巻～第9巻 計204ページ 論文44編」を刊行した。

4. 「気象研究ノート」の刊行

「気象研究ノート」は気象学・大気科学の最新の知見や技術について、テーマごとに詳細に解説を掲載した不定期刊行の学術誌である。編集作業等は、委員12名で構成された気象研究ノート編集委員会が担当している。

2013年度は、228号「エルニーニョ・南方振動 (ENSO) 研究の現在」及び229号「高層気象観測の発展と現状」

の2冊を刊行した。

また、過去に刊行した気象研究ノートを電子化して会員に公開するため、著作権の委譲に関する取り決めがなされていなかった1993年以前刊行の気象研究ノートに関して、著者にあらためて著作権の委譲を求めることとなった。この作業を円滑に進めるため、著作権の委譲を求める旨を、機関誌「天気」や学会ホームページを通じて著者に周知を図った。約9ヵ月の周知期間に著者等から特段の意見等が寄せられなかったことから、全ての気象研究ノートの著作権は日本気象学会に委譲されたものとして、今後の作業を進めることとしている。

5. 「大会講演予稿集」の刊行

「大会講演予稿集」は、春季・秋季大会の発表論文の予稿（要約を1ページに掲載）を全て掲載した刊行物である。掲載講演数は大会ごとに400～500編になる。編集作業等は、大会の講演全般を管理する講演企画委員会が担当している。

2013年度は「103号（春季大会）：口頭発表247編、ポスター発表137編、合計384編」「104号（秋季大会）：口頭発表332編、ポスター発表208編、合計540編」を刊行した。

6. その他

(1) 一般向け啓発図書の刊行

地球温暖化に関する研究成果を一般向けに解説した「地球温暖化—そのメカニズムと不確実性」を、専門家に執筆を依頼し、地球環境問題委員会が編集を担当して作成した。なお、本書は2014年度に刊行することを予定している。

(2) 日本気象学会刊行物の電子媒体化

日本気象学会が刊行した「天気」、「気象集誌」、「SOLA」、「大会予稿集」の電子媒体化（DVD）を電子情報委員会が実施し、会員を含めて一般向けに販売を行っている。2013年度は2012年度の上記刊行物をDVD化した。

III 研究の奨励、援助および研究業績の表彰事業の実施（公益目的事業3）

学術及び科学技術の振興及び発展を図ることを目的に、気象学・大気科学に関する個人またはグループの優秀な研究・教育・普及等の業績を顕彰している。

また、若手研究者を対象に、国外での学術研究集会への参加に際しての旅費等の援助を行うとともに、我が国で開催する学術研究集会への国外からの参加を促すために、旅費等の支援を実施している。これらの活動を行うことにより、国際学術交流を推進している。

1. 研究業績の表彰

(1) 日本気象学会の表彰

日本気象学会賞、藤原賞、堀内賞、山本・正野論文賞、奨励賞について、それぞれの候補者推薦委員会より推薦された候補者について、理事全員の投票により決定している。2013年度は以下の通り顕彰を実施した。

この他、気象集誌論文賞並びにSOLA論文賞は、それぞれの編集委員会が決定している。2013年度は以下の通り顕彰を実施した。

賞	受賞者	業績又は対象論文
日本気象学会賞	黒田友二（気象研究所）	成層圏—対流圏結合系の変動と予測可能性に関する研究
	向川均（京都大学）	
	竹村俊彦（九州大学）	エアロゾルの気候影響に関するモデル研究
藤原賞	宮原三郎（九州大学名誉教授）	中層および超高層大気力学の発展につくした功績
	近藤豊（東京大学）	地球大気環境科学に関わるオゾンとエアロゾル研究の推進
堀内賞	野中正見（海洋研究開発機構）	太平洋における経年から十年スケール変動に関する海洋数値モデルを用いた研究
	横田達也（国立環境研究所）	温室効果ガス観測技術衛星「いぶき（GOSAT）」プロジェクトの推進

山本・正野 論文賞	山崎 哲 (海洋研究開発機構)	Yamazaki, A. and H. Itoh, 2013: Vortex-vortex interactions for the maintenance of blocking. Part I: The selective absorption mechanism and a case study. J. Atmos. Sci., 70, 725-742. Yamazaki, A. and H. Itoh, 2013: Vortex-vortex interactions for the maintenance of blocking. Part II: Numerical experiments. J. Atmos. Sci., 70, 743-766.
	茂木信宏 (東京大学)	Moteki, N., Y. Kondo, N. Oshima, N. Takegawa, M. Koike, K. Kita, H. Matsui and M. Kajino, 2012: Size dependence of wet removal of black carbon aerosols during transport from the boundary layer to the free troposphere. Geophys. Res. Lett., 39, L13802, doi:10.1029/2012GL052034.
奨励賞	中村一樹 (北海道大学(現防災科学技術研究所))	体験に基づいた気象災害の防災・減災、環境保全意識向上のための活動
気象集誌 論文賞	小司禎教 (気象研究所)	Shoji, Y., 2013: Retrieval of water vapor inhomogeneity using the Japanese nationwide GPS array and its potential for prediction of convective precipitation. J. Meteor. Soc. Japan, 91, 43-62.
	山本博基 (京都大学) 余田成男 (京都大学)	Yamamoto, H. and S. Yoden, 2013: Theoretical estimation of the superrotation strength in an idealized quasi-axisymmetric model of planetary atmospheres. J. Meteor. Soc. Japan, 91, 119-141.
	森 正人・木本昌秀 (東京大学)・ 石井正好 (気象研究所)・横井寛・ 望月崇 (海洋研究開発機構)・近本 喜光 (IPRC)・渡部雅浩 (東京大 学)・野沢徹 (国立環境研究所)・ 建部洋晶 (海洋研究開発機構)・ 坂本 天 (東京大学)・小室芳樹 (海洋研究開発機構)・今田由紀 子 (東京大学)・小山博司 (海洋 研究開発機構)	Mori, M., M. Kimoto, M. Ishi, S. Yokoi, T. Mochizuki, Y. Chikamoto, Y. Watanabe, M. Nozawa, T. Tatebe, H. Takashi, T. Sakamoto, Y. Komuro, Y. Imada and H. Koyama, 2013: Hindcast prediction and near-future projection of tropical cyclone activity over the western North Pacific using CMIP5 near-term experiments with MIROC. J. Meteor. Soc. Japan, 91, 431-451.
SOLA 論文賞	茂木 耕作 (海洋研究開発機構) 万田 敦昌 (長崎大学)	Moteki, Q. and A. Manda, 2013: Seasonal migration of the Baiu frontal zone over the East China Sea: Sea surface temperature effect. SOLA, 9, 19-22.

(2) 九州支部奨励賞

九州支部の独自活動の一つとして、支部会員で、「気象学の向上に資する研究を行っている」、「気象学の教育・啓蒙活動を積極的に行っている」、「気象学を応用した活動で社会に貢献している」のいずれかの項目に該当する者を最大で3名選び顕彰している。

2013年度は以下のとおり顕彰を実施した。

- ・氏名：平田英隆
- ・所属：九州大学大学院理学府地球惑星科学専攻 修士課程2年

(3) 部外表彰等受賞候補者の推薦

関係団体等が主宰するいくつかの賞に対して、日本気象学会として候補者を推薦している。部外表彰等候補者推薦委員会が担当しており、2013年度は以下の2名の日本気象学会員が受賞した。

① 平成25年度東レ科学技術賞

- ・受賞者：近藤豊 (東京大学大学院理学系研究科)
- ・研究業績：地球大気環境に関わるオゾンとエアロゾル研究の推進

② 平成25年度宇宙開発利用大賞国土交通大臣賞

- ・受賞者：岡本謙一（鳥取環境大学）
- ・研究業績：宇宙からの降雨観測技術の研究開発

2. 国際学術交流事業への支援・援助

国際学術研究集会等に出席して論文の発表もしくは議事の進行に携わる予定の者に、申請によって渡航費の補助を行っている。資格は学会員に限定しないが、原則として修士論文提出程度の研究実績を要する者で、他から渡航費の援助を得られない者に限定している。国際学術交流委員会が担当し、2013年度は以下の2名に補助を行った。

① 補助者：本田匠（九州大学大学院理学府）

- ・会議名：Davos Atmosphere and Cryosphere Assembly DACA-13
- ・場所：スイス・ダボス
- ・期間：2013年7月8-12日

② 補助者：小川史明（東京大学大学院理学系研究科）

- ・会議名：Climate implications of frontal scale air sea interaction
- ・場所：アメリカ・コロラド州ボルダー（米国国立大気研究センター）
- ・期間：2013年8月5-7日

IV その他この目的を達成するために必要な事業の実施

1. 社員（会員）の異動状況

2013年度の社員（会員）の異動状況は下表のとおりである。近年の会員数の減少は1～2%/年であったが、2013年度は、1%となっており、個人会員の減少は0.4%にとどまっている。個人会員のうち一般会員は2%の減少であるが、学生会員と高年会員はむしろ増加している。高年会員の増加の一部は一般会員の会員資格の変更によるものと思われるが、学生会員の増加は良い傾向といえる。

社員種別		社員数		増減数
		本年度末 (2014年3月31日)	前年度末 (2013年3月31日)	
個人会員	A	2,458	2,500	-42
	B	455	474	-19
	C	22	22	0
	D	0	5	-5
	A（学生）	220	210	10
	B（学生）	19	20	-1
	C（学生）	8	0	8
	A（高年）	182	151	31
	B（高年）	11	12	-1
	C（高年）	0	0	0
	合計	3,375	3,394	-19
団体会員	団体A	72	90	-18
	団体B	80	81	-1
	団体C	49	51	-2
	合計	201	222	-21
賛助会員		28	30	-2
名誉会員		15	16	-1
計		3,619	3,662	-43

2. 役員の選任及び解任

2013年度総会では、辞意を表明した徳廣貴之理事の解任及びその交代の平井雅之理事の選任を承認した。

3. 会議等の開催

(1) 社員総会

全ての個人会員で構成される社員総会は学会の最高意思決定機関であり、年1回春季大会の期間に開催している。2013年度は、2013年5月16日に代々木オリンピック記念青少年センターで開催した。

総会においては以下の議案を審議し、総会参加票による参加者を加えて賛成多数で承認した。

- ① 審議事項
 - 議案 1. 「2012 年度事業報告」
 - 議案 2. 「2012 年度収支決算報告」
 - 議案 3. 「2012 年度監査報告」
 - 議案 4-1. 「理事の解任について」
 - 議案 4-2. 「理事の選任について」
- ② 報告事項
 - 報告 1. 「2013 年度事業計画」
 - 報告 2. 「2013 年度収支予算」
 - 報告 3. 「細則の変更」
 - 報告 4. 「『1993 年以前に刊行した「気象研究ノート」に関する著作権の学会への委譲についての御願ひ』」

(2) 理事会

8月を除く毎月1回、理事長が招集し開催している。理事20名、幹事2名によって理事会を構成しているが、理事長は必要に応じて支部長等の出席を求めて開催することが出来る。2013年度の理事会議題（協議事項）は以下の表のとおりである（定常的な報告事項は省略）。

また、2013年度から、理事会開催場所に出席できない理事もTV会議システムを通じて出席できるようにし、毎回数名の理事がこの方法で出席している。

開催年月日	協議事項	協議の結果
第37期第4回理事会 (2013年4月10日)	1. 理事会運営要領と公益社団法人移行に伴う経過措置に関する規程について	全会一致で承認
	2. 第37期第8回常任理事会議事録の確認	〃
	3. 第37期第3回理事会議事録の確認	〃
	4. 会員の新規加入等について	〃
	5. 2013年度総会議案について	〃
	6. 細則の変更について	〃
	7. 規程類の整備計画について	〃
	8. 理事の任務分担の変更について	〃
第37期第5回理事会 (2013年5月15日)	1. 第37期第4回理事会議事録の確認	全会一致で承認
	2. 会員の新規加入等について	〃
	3. 2013年度総会の進行について	〃
	4. 2013年度秋季大会、2014年度春季大会の準備状況及び今後の担当機関について	〃
	5. 第23回風工学シンポジウムについて	〃
第37期第6回理事会 (2013年6月20日)	1. 第37期第5回理事会議事録の確認	全会一致で承認
	2. 2013年度総会議事録の確認	〃
	3. 会員の新規加入等について	〃
	4. 支部規約の改正	〃
	5. 寄付金の取り扱いについて	〃
	6. 日本学術会議大型研究計画マスタープラン策定に関する今後の対処について	〃
第37期第7回理事会 (2013年7月25日)	1. 第37期第6回理事会議事録の確認	全会一致で承認
	2. 会員の新規加入等について	〃
	3. 2013年度秋季大会交付金の増額申請について	〃
	4. 2013年度の第1次補正予算について	〃

第 37 期第 8 回理事会 (2013 年 9 月 18 日)	1. 第 37 期第 7 回理事会議事録の確認	全会一致で承認
	2. 会員の新規加入について	〃
	3. 選挙管理委員長の選任について	〃
	4. 理事候補者の定数について	〃
	5. 沖縄支部規程の改正について	〃
第 37 期第 9 回理事会 (2013 年 10 月 30 日)	1. 第 37 期第 8 回理事会議事録の確認	全会一致で承認
	2. 会員の新規加入等について	〃
	3. 温暖化書籍出版助成提案について	〃
	4. 個人情報保護方針について	継続審議
	5. 日中韓合同気象学会の今後について	全会一致で承認
第 37 期第 10 回理事会 (2013 年 11 月 19 日)	1. 第 9 回理事会議事録の確認	全会一致で承認
	2. 会員の新規加入等について	〃
	3. 第 51 回アイソトープ・放射線研究発表会への参画について	〃
	4. 春季大会・秋季大会担当機関について	〃
	5. 個人情報保護方針について	〃
第 37 期第 11 回理事会 (2013 年 12 月 25 日)	1. 第 37 期第 10 回理事会議事録の確認	全会一致で承認
	2. 会員の新規加入等について	〃
第 37 期第 12 回理事会 (2014 年 1 月 29 日)	1. 第 37 期第 11 回理事会議事録の確認	全会一致で承認
	2. 会員の新規加入等について	〃
	3. 第 37 期名誉会員の推薦について	〃
第 37 期第 13 回理事会 (2014 年 2 月 26 日)	1. 第 37 期第 12 回理事会議事録の確認	全会一致で承認
	2. 会員の新規加入等について	〃
	3. 2014 年度事業計画について	〃
	4. 2013 年度収支予算について	〃
第 37 期第 14 回理事会 (2014 年 3 月 20 日)	1. 第 37 期第 13 回理事会議事録の確認	全会一致で承認
	2. 会員の新規加入等について	〃
	3. 2014 年度の事務局体制について	〃
	4. 熱帯気象研究連絡会の設置について	〃

(3) 支部長会議

公益社団法人移行に伴い、支部からの理事の選任が廃止されたことから、各支部との連携強化を図るため新たに支部長会議を設置した。新たに設置した支部長会議は、理事長、理事、監事、支部長により構成され、原則として年 2 回理事長が招集して開催することとしている。初年度の 2013 年度は、いずれも東京で以下のとおり開催した。

① 第 1 回支部長会議

- ・日時：2013 年 7 月 1 日
- ・議題：公益社団法人への移行について（理事会説明）
第 37 期第 1 回評議員会について（理事会説明）
支部活動について（支部報告）
今後の学会活動（支部活動）について（懇談）

② 第 2 回支部長会議

- ・日時：2014 年 1 月 29 日
- ・議題：支部活動について（支部報告）
第 1 回支部長会議における課題について（懇談）
・ジュニアセッションの開催について
・会員数減少対応策について
第 37 期第 2 回評議員会について（理事会説明）

(4) 評議員会

評議員会は、評議員、理事長、理事、監事、支部長によって構成し、理事会の諮問事項を審議する。評議員は

諮問事項に適任な有識者に理事長が委嘱する。任期は2年である。

第37期評議員会では前期に引き続いて、「現代社会における学会の役割と今後の展望」を諮問した。2013年度の評議員会は2013年7月1日並びに2014年2月28日の2回開催し、倫理規程の策定、ジュニアセッションの開催、不確実性を伴う情報の取り扱い、気象予報士会との連携、社会的要請課題の把握方法等々について、幅広くご議論・ご提言をいただいた。これらの提言は今後の学会活動に反映していくこととしている。

2014年度は理事会で今後新たに選定する諮問事項に適任な有識者を新たに第38期評議員として選任し、委嘱する。

(5) 委員会

日本気象学会では23の委員会を設置して、公益目的事業1~3を分担して実施している。なお、上述した3つの事業報告の中で言及しなかった事業について、設置している委員会活動の一環として実施している。以下にその事業について概要を記載する。

① 企画調整委員会

公益社団法人に移行したことを機会に、従前からあった各種規程類について、点検・検討を行い、加除等を実施し、体系化した。また、これまで制定されていなかった、各種委員会規程、情報公開規程、個人情報取り扱い要領、理事会運営要領、支部長会議運営要領、個人情報取り扱い要領、個人情報保護方針等について作成し、理事会等で決定した。さらに、これまで定められていなかった倫理規程については、公益社団法人移行を契機として定めることとし、企画調整委員会で原案を作成し、理事会等で検討をおこない、さらに評議員会で検討を行った。今後、会員等への意見照会を実施、2014年度中に制定することとしている。

② 学術委員会

第36期、第37期の学術委員会が中心となり、日本の気象学の一層の発展に資するため、最近の歩みを振り返り今後の方向について検討を行い、「日本気象学の現状と展望」として取りまとめた。この文書において以下の8つの提言を行っている。

- ・気象学の基礎研究の推進
- ・地球システム研究の推進
- ・観測システムの高度化
- ・数値シミュレーションモデルとデータ同化技術の開発と利用
- ・気象予測とその防災および産業利用に関する研究の推進
- ・環境問題への貢献と地球温暖化予測の不確実性の低減に資する研究強化
- ・気象知識の普及啓発
- ・人材育成と男女共同参画

③ 電子情報委員会

電子情報委員会が中心となり、天気編集委員会、講演企画委員会、気象研究ノート編集委員会の関係委員が参加し、学会サーバー整備に関する作業グループを立ち上げ、検討を開始した。

④ 人材育成・男女共同参画委員会

日本気象学会のホームページに、人材育成・男女共同参画委員会のサイトを開設し、委員会活動の紹介、人材育成・男女共同参画に関する海外事情の紹介、女性ロールモデルの紹介等々を行うこととした。

3. その他

(1) 会員情報管理システムの更新

学会事務局で運用している会員情報管理システムは、会員の住所等々の情報を管理し、機関誌等の発送、会費等の請求書の発送等を行うために不可欠なものである。旧会員管理情報システムは運用を始めて20年以上が経過し、保守が困難となってきたため、業者に委託してシステムを更新した。旧システムからデータを移行した上で、約6か月の新旧システムの並行運用期間を経て、2013年10月1日から本運用を始めた。

以上